



No.32

令和4年  
2月10日発行



# 北海道病院

だより

## [Contents]

- P1.新年のあいさつ
- P6.最新のアンギオ装置導入しました!
- P7.外科のご紹介
- P9.糖尿病看護認定看護師について
- P10.第56回リバーサイド消化器懇話会  
実施報告
- 災害救急指定日
- 今号の一枚～表紙写真紹介～
- P11.各科外来診療担当医師表



# 新年明けまして おめでとうございます。



院長  
古家 乾

本年の1月中旬で、日本での新型コロナウイルス感染症の初発患者から2年が経過します。昨年11月末に新たなオミクロン株が検出され、世界中で拡散が広がるなか、日本でも年末年始の『ヒト』の移動とともに感染が広がる可能性を秘めています。

南アフリカでオミクロン株が最初に報告されたことは、人類のこの感染症への対応の結果ともいえます。CovaxなどのWHO主導の途上国へのワクチン供給体制にも関わらず、コロナワクチンの2回摂取率（以下Our World in Data, 2021.12.28アクセス）はアフリカ全体で9%足らずです。南アフリカでさえも26%

余りで、全世界の平均約48%に及びません。この状況がウイルスにとってアフリカでは増殖しやすく、変異をおこす確率も高くなると思われます。

一方、米国は61%余りのワクチン接種率ですが、患者数は1日で20万人を超えています。英国、フランスは接種率70%前後ですが、英国の患者数は10万人超、フランスは7万人超です。人口100万人あたりの発症患者数（7日間移動平均）は、南アフリカ、米国、仏、英国がそれぞれ、387.79、381.38、766.59、1,066.76となります。因みに、日本、韓国はそれぞれ、1.08、133.17となります。それぞれの国がどれだけコロナ対策に歓智や経済力を



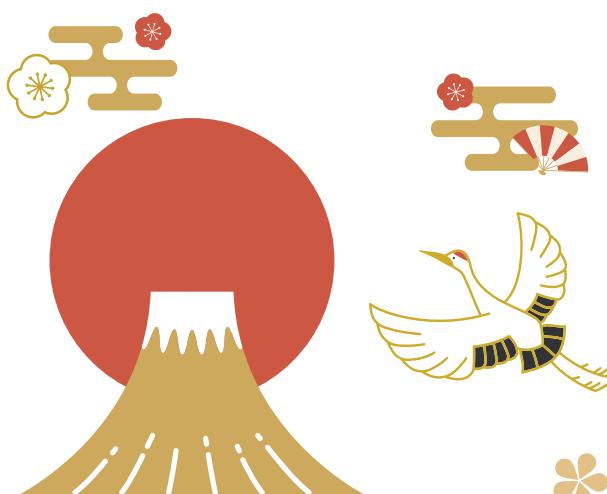
注いだのか調べてはいませんが、パンデミックになると「自分のところだけが良ければいい」という発想は無意味に感じられます。

京都大学の山中伸弥先生が、「Factor X」という未知の要因を提唱されたことは皆さん御存知と思います。日本は徹底的な検査と隔離や社会全体の活動縮小が海外に比べて緩やかであるのに、感染者や死者の数が少ないので何故かという疑問を解く要因を求めて名付けた言葉です。2021年12月の初めに理化学研究所からこの疑問を解決する一つの発表がありました。ヒトの体内に存在する季節性コロナウイルスに対する『記憶免疫キラーT細胞』が認識する抗原部位を発見し、その部位が新型コロナウイルスのスパイク(S)タンパク質領域にも強く交差反応するという発見です。日本人に多いヒト白血球型抗原の一つHLA-A\*24:02に結合するSARS-CoV-2のSタンパク質中のエピトープの同定に成功

し、季節性コロナウイルスに対する記憶免疫キラーT細胞は、このエピトープを交差認識し、SARS-CoV-2に対しても抗ウイルス効果を示すというものです。

多分、HLA以外の複数の要因も重なってFactor Xを説明可能になるのだと思いますが、人類の叡智と経験で早くこのコロナ禍を脱したい気持ちは皆さん共通の願いだと思います。

結びになりますが、皆様が安心して普通の生活を取り戻せる日が一日も早く実現することを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



## 新年のあいさつ



副院长・  
消化器センター長・  
総合支援センター長  
数井 啓蔵

新年明けましておめでとうございます。

2021年はどんな年でしたでしょうか。一年延期になった東京オリンピックは、新型コロナ第五波の混乱の中での開催となり、国民の誰もが不安を抱いていました。日本は先進国の中でもワクチン接種率が極めて低い状態でしたが、政府の号令とともに国、自治体、医療現場が躍起になってワクチン接種を進め、現在は世界でもワクチン摂取率上位を占める状況になりました。ワクチン接種の普及だけでは説明はつきませんが、幸いにも、オリ・パラ以降日本での感染者数は激減しています。少しずつ経済活動が正常化されてきておりますが、新たなオミクロン株の出現により、まだ予断を許さない状況が続くと思います。猛威を振るった新型コロナ第五波からの反省点は、病床があるのに感染者を受け入れることのできない日本の医療体制でした。今後は、コロナのみならず超高齢化社会、少子化を見据え、病院統合や診療科における医療資源の集約・重点化を含めた地域医療構想がさらに重要となっていくと思われます。

当院は地域医療を守る中核病院として、「断らない医療」を目指しておりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長・  
周産期医療センター長  
山田 俊

明けましておめでとうございます。

今年も、いつもとは違ったお気持ちでお正月を迎えたことと存じます。先のことは、なかなか見通せない状況ですが、ある時ふと気づいたら光が射していて、みるみる世の中が明るくなってくる、そのような感じで収束していくような気がしています。2年に及ぶコロナ禍で全国的に出生数減少が加速する中で、当院の周産期医療センターではその間に1000名近い赤ちゃんが産声をあげました。そして、今日も希望あふれる新しい命が誕生しています。出産と出生を支え、寄り添い、育むことに、周産期医療チームとして関わることができることに日々感謝しています。何よりも、子どもたちが生きていく未来が、光輝くものであってほしいと心から願います。



ジェイコー北海道病院がこの地区にあってよかったです、本当に助かったと思っていただけるような施設をめざして、職員一丸となって日々の診療に精進いたします。

本年もご支援をよろしくお願いいたします。



いいね!お待ちしています／

JCHO北海道病院  
産婦人科公式Instagram更新中です!



@jcho\_hokkaido.maternity  
赤ちゃんの写真に癒されます♪





附属介護老人保健施設  
副部長  
伊藤 美夫

新年明けましておめでとうございます。

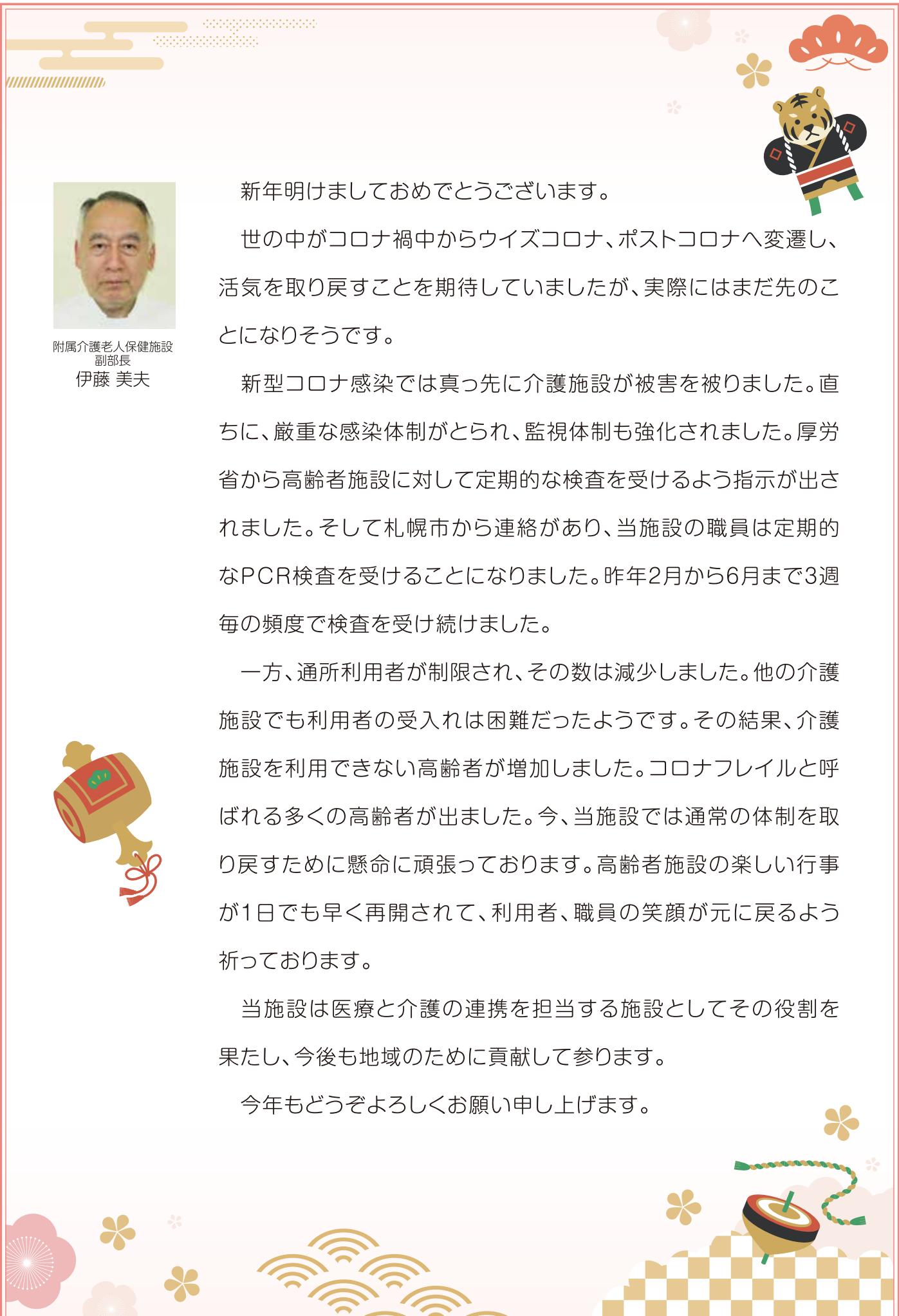
世の中がコロナ禍中からウイズコロナ、ポストコロナへ変遷し、活気を取り戻すことを期待していましたが、実際にはまだ先のことになりそうです。

新型コロナ感染では真っ先に介護施設が被害を被りました。直ちに、厳重な感染体制がとられ、監視体制も強化されました。厚労省から高齢者施設に対して定期的な検査を受けるよう指示が出されました。そして札幌市から連絡があり、当施設の職員は定期的なPCR検査を受けることになりました。昨年2月から6月まで3週毎の頻度で検査を受け続けました。

一方、通所利用者が制限され、その数は減少しました。他の介護施設でも利用者の受け入れは困難だったようです。その結果、介護施設を利用できない高齢者が増加しました。コロナフレイルと呼ばれる多くの高齢者がいました。今、当施設では通常の体制を取り戻すために懸命に頑張っております。高齢者施設の楽しい行事が1日でも早く再開されて、利用者、職員の笑顔が元に戻るよう祈っております。

当施設は医療と介護の連携を担当する施設としてその役割を果たし、今後も地域のために貢献して参ります。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



# 最新のアンギオ装置導入しました！



消化器内科医長 馬場 英

令和3年10月より、最新の血管撮影装置Alphenix Sky+（キヤノンメディカルシステムズ社製）を導入しました。

血管撮影装置とは、カテーテルと呼ばれる細い管を目的の血管や臓器まで挿入し、造影剤を注入して血管の状態を撮影する、いわゆる『カテーテル検査』を行う装置です。動脈瘤の有無や血管の狭窄や閉塞、腫瘍の分布や血流・血行状態を知るための検査です。このほか当院では血管系のIVRのみならず、胆道系の経皮的手技、内視鏡手技や各種ドレナージといった非血管系IVRにも同装置を活用しております。

本システムの特徴として①高精細、②DoseTrackingSystem（リアルタイムでどこにX線が照射されているかを把握・管理できるアプリケーション）、③Spot透視（必要な範囲にのみX線を絞って照射する機能）、④AlphaCT（3D回転撮影を行い、CT様イメージの作成が可能）があげられます。これらの技術を使用することで、従来確認が難しかった細い血管や病変部の可視化が可能であり、複雑な病変にも被曝量を低減した低侵襲でより安全に治療をすることが可能になりました。

最新の技術を使用したより低侵襲な治療、さらには治療成績の向上をめざし、地域の皆さんに質の高いサービスを提供することで地域医療へ貢献できるように頑張っていきたいと思っております。対象となる患者様がおられましたら御紹介よろしくお願ひいたします。



# 外科のご紹介



外科部長 正村 裕紀

## はじめに

当科では全身麻酔、局所麻酔合わせて年間約500例の手術を行っています。

また乳がん検診、CVポート留置や胃瘻造設を含めた栄養管理、消化器癌/乳癌の化学療法、緩和治療や感染管理など多岐にわたる診療を6名の外科医のチームで行っています。

## 当科の特徴

胃癌や大腸癌などの消化器疾患、肺癌、自然気胸等の呼吸器疾患、乳癌、甲状腺内分泌疾患や内シャント造設/腹膜透析用カテーテル留置などの透析関連などの心/大血管以外の全身の多岐にわたる臓器の外科的治療を6名の医師によるチーム制で行っています。6名の医師の中には外科学会専門医・指導医、消化器外科学会専門医・指導医、内視鏡外科学会技術認定医、肝胆脾外科学会高度技能専門医、呼吸器外科学会専門医がいます。

食道/胃/大腸癌、肝胆脾領域癌、胆石症、腸閉塞、鼠径ヘルニア、虫垂炎などの消化器疾患を消化器センターとして消化器内科と緊密な連携を保ち手術を行っています。胃癌、大腸癌などの消化管悪性疾患、胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの良性疾患に対しては積極的に低侵襲の腹腔鏡視下手術を行っています。内視鏡外科学会技術認定医が在籍し北海道大学病院消化器外科Iとも連携し、質の高い手術を行っています。

# Introduction of Surgery

当消化器センターは近隣のご施設より肝胆膵疾患をご紹介いただく機会が多く、肝胆膵疾患の手術症例は札幌市内でも有数の施設となっています。日本肝胆膵外科学会が認定する肝胆膵高度技能専門医が在籍し、本年より肝胆膵高度技能専門医修練施設（B）に認定されました。肝胆膵手術は複雑で難度の高いものが多く、さらに個々の症例で解剖学的な変異や癌の進展状況に応じた適切な判断が求められます。こうした場面に対応できる十分な技量と適切な判断力を持つ肝胆膵外科チームが手術を行っており良好な成績をおさめています。

乳癌は年間2500人に及ぶ検診を毎日行い、北海道がんセンター乳腺外科の協力のもとに隔週火曜日午後に乳腺外来を行っています。乳房温存療法やセンチネルリンパ節郭清なども行い、周術期の化学内分泌療法も担当しています。甲状腺内分泌疾患においても当院糖尿病内分泌内科との連携のもとに手術を行っています。

また当院はもともと結核療養所であった歴史より肺癌、気胸などの呼吸器疾患も多数診療しております。呼吸器内科と共に呼吸器センター外科として肺癌、気胸、膿胸、縦郭腫瘍などの外科的治療を担当しております。呼吸器外科学会専門医が在籍し呼吸器外科学会専門研修連携施設もあります。胸腔鏡手術を積極的に行い低侵襲であることを重視しております。



地域の  
皆様へ

病院内地域の関係機関と密接に連携をはかり、質の高い外科治療を行うことで地域から信頼される外科を目指しておりますので、よろしくお願いします。

# 糖尿病看護 認定看護師について

外来 笹本 陽子

**糖尿病の発症要因の多くは生活習慣です。**

**「治療」だけで良い血糖値を保つことは難しく、日々の生活を整える必要があります。**

**しかし、自らの意思だけで生活を整えることができる人は、そう多くはありません。**

「糖尿病」という言葉は世の中にあふれていて、患者さんもわかっていると思っているかもしれませんが、実際には、漠然と「血糖値が高い病気」という認識しかない方が多いです。もちろん糖尿病は「血糖値が高い病気」に違いないのですが、「どうして血糖が高くなるのか」「身体にどんな影響があるのか」を理解していなければ、生活習慣を整えることはできません。当院の外来では、主に医師と看護師／栄養士が、個々に合わせた指導を行っていますが、教育入院も行っています。

教育入院では、「どうして血糖が高くなり、それは身体にどんな影響が出るのか」を学習します。そして、今後どのように生活を整えていくかを、医師・看護師・栄養士・理学療法士・薬剤師からなる糖尿病療養指導チームが共に考え、医療以外の手助けが必要な方には、ソーシャルワーカーが相談にのります。また、眼科や腎臓内科、循環器内科、皮膚科、整形外科があることから、糖尿病からくる合併症を専門の科で診療することができます。

糖尿病のコントロールは、一人一人に適した方法があります。当院の糖尿病療養指導チームは、患者さん一人一人への「テーラーメード」の療養方法を共に考えることを目指しています。



糖尿病療養指導チームによるカンファレンスの様子

## 第56回 リバーサイド消化器懇話会

令和3年11月16日(火)18:20より、新型コロナウィルス感染拡大防止のためオンライン講演会を開催しました。

参加者は院外医師12名、院外メディカルスタッフ1名、院内医師14名、院内メディカルスタッフ12名、合計39名でした。

「granulosarcomaであった小腸腫瘍の検討」、「術前化学療法後に腹腔鏡下切除した管内胆管癌の検討」、「黄色肉芽腫胆囊炎として手術された偶発胆囊癌の検討」の3題の講演後、特別講演として、国立病院機構 函館病院 院長 加藤元嗣先生より「新GERDガイドラインと酸分泌抑制薬の位置づけ」についてご講演を頂きました。

次回は令和4年3月15日(火)18:20～19:30の開催予定となっております。

現時点はオンライン講演会の予定としております。沢山の方々のご聴講をお待ちしております。



### 災害救急指定日

〈令和4年〉2月12日(土)、24日(木)、3月8日(火)、18日(金)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。



#### ◆今号の一枚◆ ～表紙写真紹介～

**Q 表紙の動物は?**  
エゾフクロウ

**Q どこで撮影したのですか?**  
教えられません(笑)

撮影者:放射線部 大野 嗣

